

1 上位計画における位置づけ

1) 千葉県都市づくりビジョン（令和5年6月／千葉県）

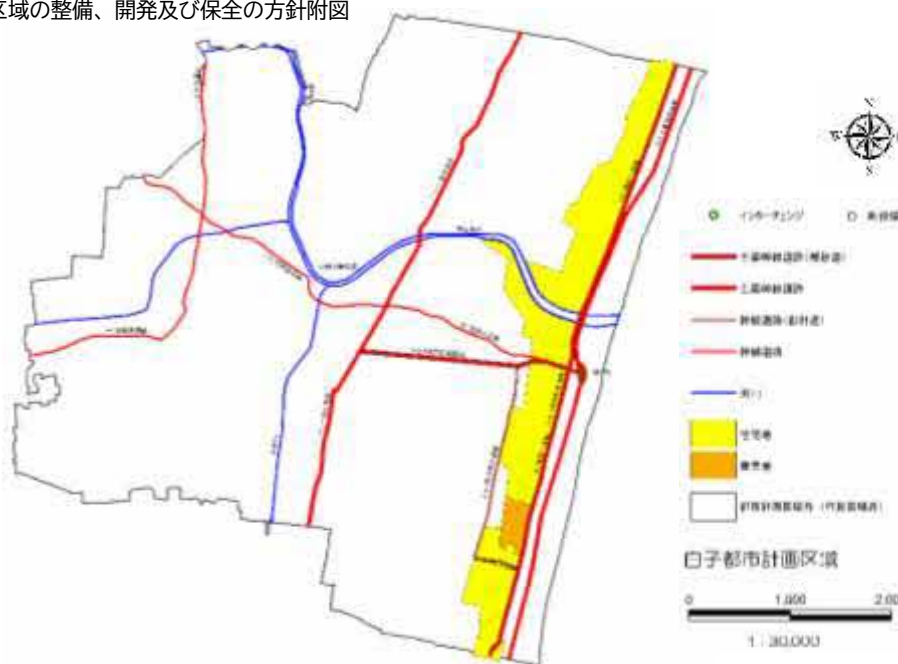
目標年次	概ね30年先を見据えた、県民の暮らしや仕事、産業等の基盤となる都市づくりの方向性や方針を示したもの
目指すべき都市の姿	多様化するライフスタイルに対応し、暮らし続けたいと思える魅力あふれる豊かな都市
都市づくりの目標	①【構造】地域の個性を生かしたコンパクトな都市 ②【安全・安心】災害に強く人々が安心して暮らせる安全な都市 ③【暮らし】多様なライフスタイルが実現できる魅力ある都市 ④【産業】地域の資源を生かし多様な働く場のある活力ある都市 ⑤【環境】環境と景観に配慮したエコな都市 ⑥【マネジメント】経営的視点に立った効率的で持続可能な都市 
広域的な都市づくりの視点	①成田空港等の国際拠点を生かした拠点の形成 ②広域道路ネットワークの構築 ③インターチェンジ周辺等の産業の受け皿づくり ④流域治水等の広域的な防災・減災対策 ⑤カーボンニュートラルな都市づくり ⑥広域的な視点に立った土地利用 ⑦公共施設等の広域化・共同化と効率的な都市経営
今後の都市づくりを支える取組	1) 広域的な視点に立ったマスタープランの策定 2) DXを活用した都市づくりの見える化と情報発信 3) 産業・環境・健康福祉・防災分野等との施策の連携 4) ICT・AI等の新技術の導入・社会実験の推進 5) 産・官・学・民の連携と民間活力の導入 6) 県民参加や子供たちの都市づくりを学ぶ機会・場の提供 7) 広域的連携を行う場づくりと市町村の都市づくり支援の推進

2) 白子都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成28年5月／千葉県）

基本理念	人間性あふれる豊かなみのりのあるまち
都市づくりの目標	①都市と自然の接点地域としての地域特性を活かし、豊かな自然をベースとしながら、新しい都市機能の導入や、従来の都市機能の高質化等を通じて、健康の中で住、職、遊、さらに文化発信の都市機能が調和した質の高い環境の街づくりをめざす。 ②さまざまな居住者、就業者、観光客にとって健康生活の場としての機能強化をめざす。 ③海水浴場、スポーツ・レクリエーション施設、温泉の既存施設、資源の活用をめざす。 ④防災体制の強化と防災・減災対策を推進し、災害に強いまちづくりをめざす。
地域毎の市街地像	役場周辺地区（関地区）南白亀川河口周辺地区は日常生活の核となる行政機能、文化交流機能、コミュニティ形成機能の中心として今後とも機能の維持向上を図り、利便性が高くまとまりのある市街地の形成を目指す。 白子インターチェンジ周辺地区は、九十九里海岸・自然公園施設・南白亀川等の観光施設の集中する地域であり、圏央道等の広域道路ネットワークの波及効果がもたらされるよう、防災性を向上させつつ、観光レクリエーションの拠点として一層の整備を図る。 主要地方道飯岡一宮線沿道地区は、道路整備や用途地域指定による適切な土地利用の誘導により、防災対策を十分に施した良好な住宅地の形成を図る。 中里地区については、圏央道等の広域道路ネットワークの波及効果がもたらされるよう、テニス等のスポーツを中心とした観光宿泊施設の一層の集積を図り、人々が集う活力のある市街地の形成を図る。 また、市街地背後に広がる田園地域は、田園環境の保全、高質化を図る。
都市づくりの基本方針	①集約型都市構造に関する方針 役場周辺地区（関地区）と南白亀川河口周辺地区に公共施設が集まっていることから、今後もこれらの地域に都市機能や居住機能の集約を図り、利便性の高い拠点市街地の形成を図る。 中里地区は、観光レクリエーション拠点として、ホテル等の宿泊施設を始めとする観光産業の発展に資する施設の集積を図る。 これらの拠点にアクセスする道路ネットワークやバス等の公共交通の充実に努めるとともに、高齢化等に対応するため、これらの拠点地区を中心に、公共公益施設等について、安全で安心して利用できるよう、バリアフリー化の推進とユニバーサルデザインの普及を図る。 ②都市の防災及び減災に関する方針 本区域東部地域は、九十九里海岸に面することから、津波による直接の被害や南白亀川への遡上による二次的な湛水による被害が想定される。よって津波対策として、海岸堤防、海岸保安林、河川堤防、湛水防除施設の整備、九十九里有料道路のかさ上げ等を推進するとともに、津波避難場所や避難路の確保を図る。 市街地部においては、都市型水害の発生を抑制するため、保水性や浸透性のある自然的な土地利用の保全を図るとともに、雨水排水施設の整備に努める。 液状化現象が想定される区域においては、液状化対策に努める。 防災拠点となる役場等の主要な公共施設については、建築物の耐震化、不燃化を図る。 ③低炭素型都市に対する方針 白子町地球温暖化対策実行計画に基づき、公共施設における緑化や温室効果ガス削減等の取組を推進する。またバス等の公共交通の利用を促進するとともに太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入や普及に努め、低炭素型のまちづくりを進める。

方針付図

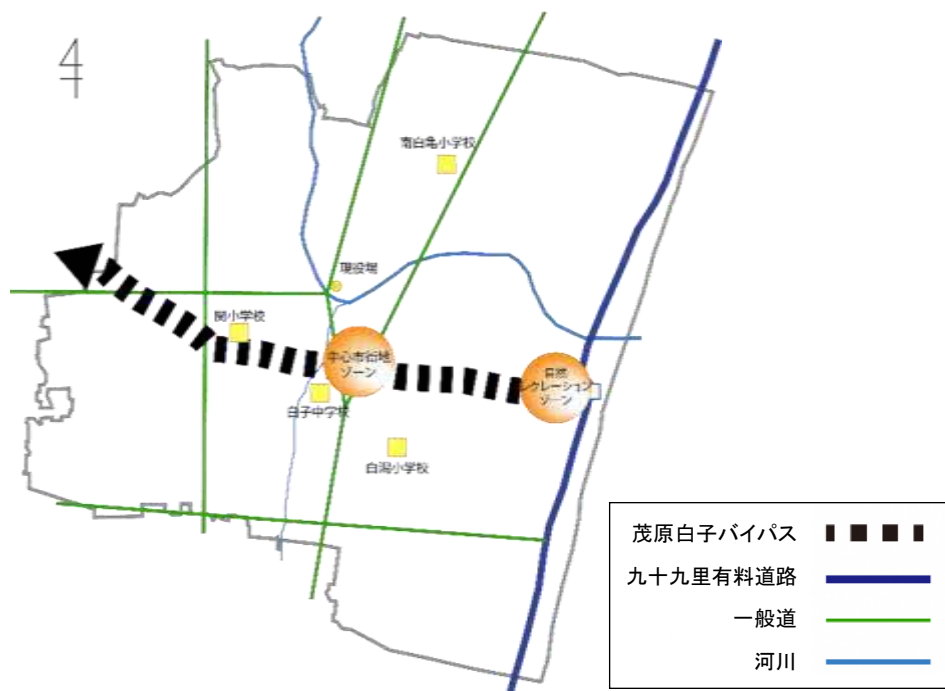
白子都市計画
都市計画区域の整備、開発及び保全の方針付図



3) 白子町第5次総合計画 後期基本計画（令和5年3月／白子町）

計画期間	平成30（2018）年度から令和9（2027）年度までの10年間
まちの将来像 テーマ	「笑顔 元気 ずっと暮らしたい町 しらこ」
まちの将来像 分野別の サブテーマ	健幸で「いきいき・のびのび」地域の力でまちづくり 健やかに安心して暮らすため、より地域に即した生活ニーズに対応し、地域の特性を生かし、笑顔あふれるまちをつくる。 にぎわいと活力にみちた魅力あふれるまちづくり 白子町の特徴を生かした豊かで住みやすいまちづくりを推進するために、地域資源の特徴や個性を発見し、活用するとともに地場産業を元気にする。 参加と協働のまちづくり 参加と協働のまちづくりを推進する仕組みづくりをさらに推進し、計画的で効率的な行財政運営を進める。
土地利用の 将来目標	利便性の高い市街地の形成 南白亀地区と白潟地区の海岸沿いの市街地に、まちとしてのにぎわいを創造しながら安心・安全・快適な暮らしを実現していくため、すべての住民が利用しやすい市街地の形成を図る。 農業的土地利用の保全 農地は、農業生産の基盤であるとともに、自然的環境の形成や災害の防止に寄与することから保全を図る。 まちづくりの拠点の形成 県道茂原白子バイパスの開通を見据え、白子中学校周辺を中心に、公共施設ゾーン、住宅ゾーン、商工業ゾーンを位置付け中心市街地の形成を図る。 地区コミュニティの形成 南白亀・白潟・関の各地区にある小学校、保育所、ふれあいセンターを含めた周辺の3地区にコミュニティを形成するための活動場所の確保を図る。

土地利用の
将来目標



基本政策

- 1) 健康で安心して暮らせるまちづくり
- 2) 強靱で安全な暮らしを実感できるまちづくり
- 3) 豊かな心と生きる力を育むまちづくり
- 4) にぎわいと活力を創出するまちづくり
- 5) 快適で利便性の高いまちづくり
- 6) 町民と共に創る協働のまちづくり

2. 町民の意向

白子町第5次総合計画後期基本計画や白子町地域公共交通計画の策定時に実施した町民に対するアンケート調査の結果をもとに、今後のまちづくりに対する町民の意向を整理しました。

(1) 白子町第5次総合計画後期基本計画策定時に実施した 住民・小中学校アンケート

<アンケート調査の概要>

住民アンケート

調査対象	町内在住の1,200人
調査方法	郵送による配布・回収(調査票に二次元コードを記載。専用WEBサイトにて回答・回収を併用)
調査時期	令和4(2022)年1月27日(木)から2月7日(月)まで
配布数	1,200票
回収数	郵送：326票(すべて有効票) WEB：111票(有効票110票・無効票1票) 有効票計：436票
回収率	36.3%

小・中学生アンケート

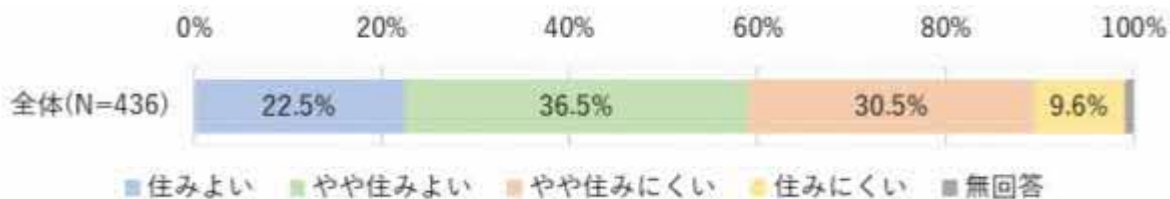
調査対象	小学6年生：62人 中学1年生：85人 中学2年生：65人 中学3年生：77人 計：289人
調査方法	学校での配布・回収
調査時期	令和4(2022)年1月
配布数	289票
回収数	計258票(すべて有効票)
回収率	89.3%

＜今後のまちづくりに対する町民の意向＞

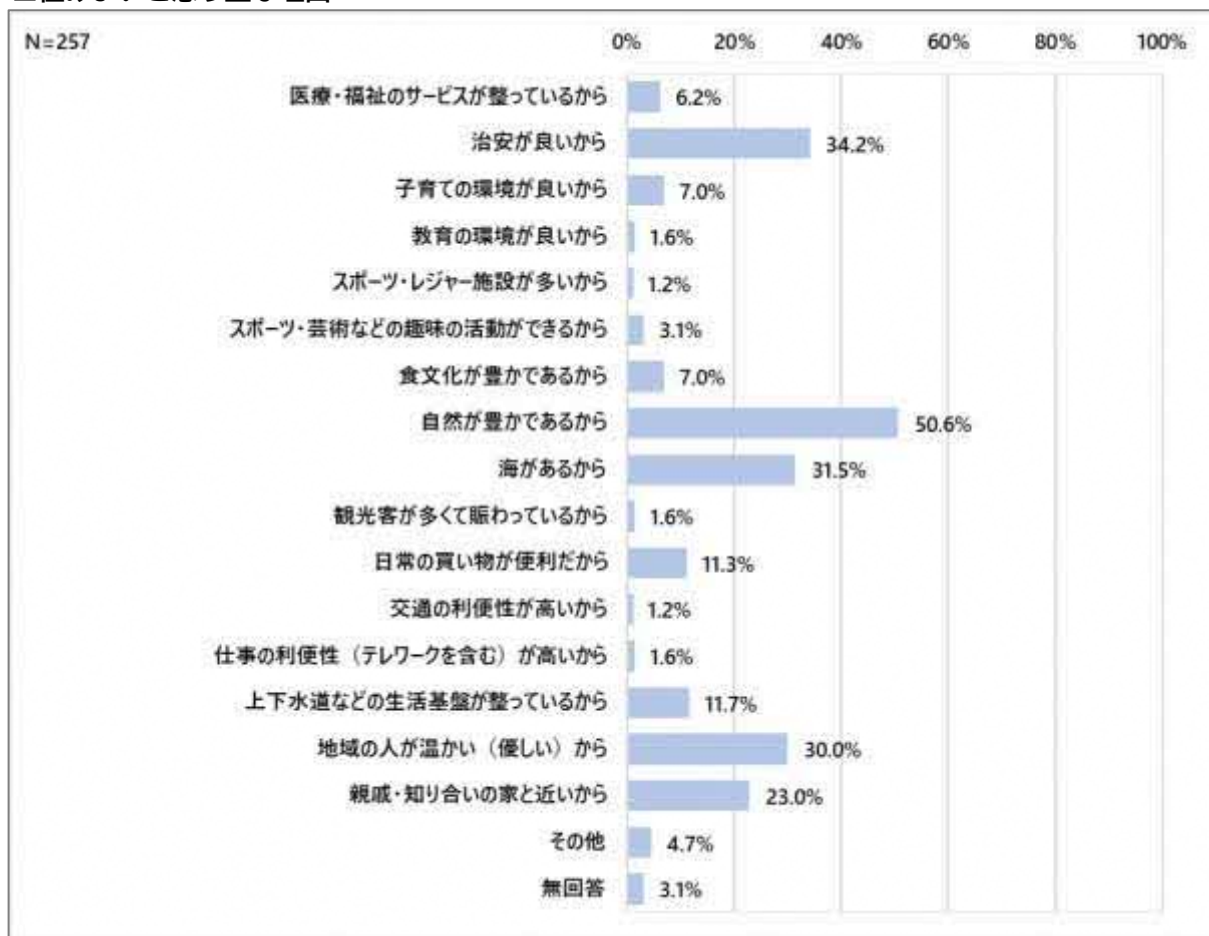
① 【住民】 白子町の住みよさ

- 白子町の住みよさに対して、「やや住みよい」が36.5%と最多で、肯定的な評価が59.0%と過半数を占めています。
- 住みよいと思う主な理由として、「自然が豊かであるから」「治安が良いから」「海があるから」との回答が多い傾向にあり、自然環境や治安に関して評価されていることがわかります。
- 一方で、住みよいと思わない主な理由としては、「交通の利便性が低いから」が最多となり、それ以外では「日常の買い物が不便だから」や「自然災害に不安を感じるから」、「医療・福祉のサービスが整っていないから」との回答が多い傾向にあり、交通利便性や生活環境、安全・安心の確保に対する取組の強化が求められています。

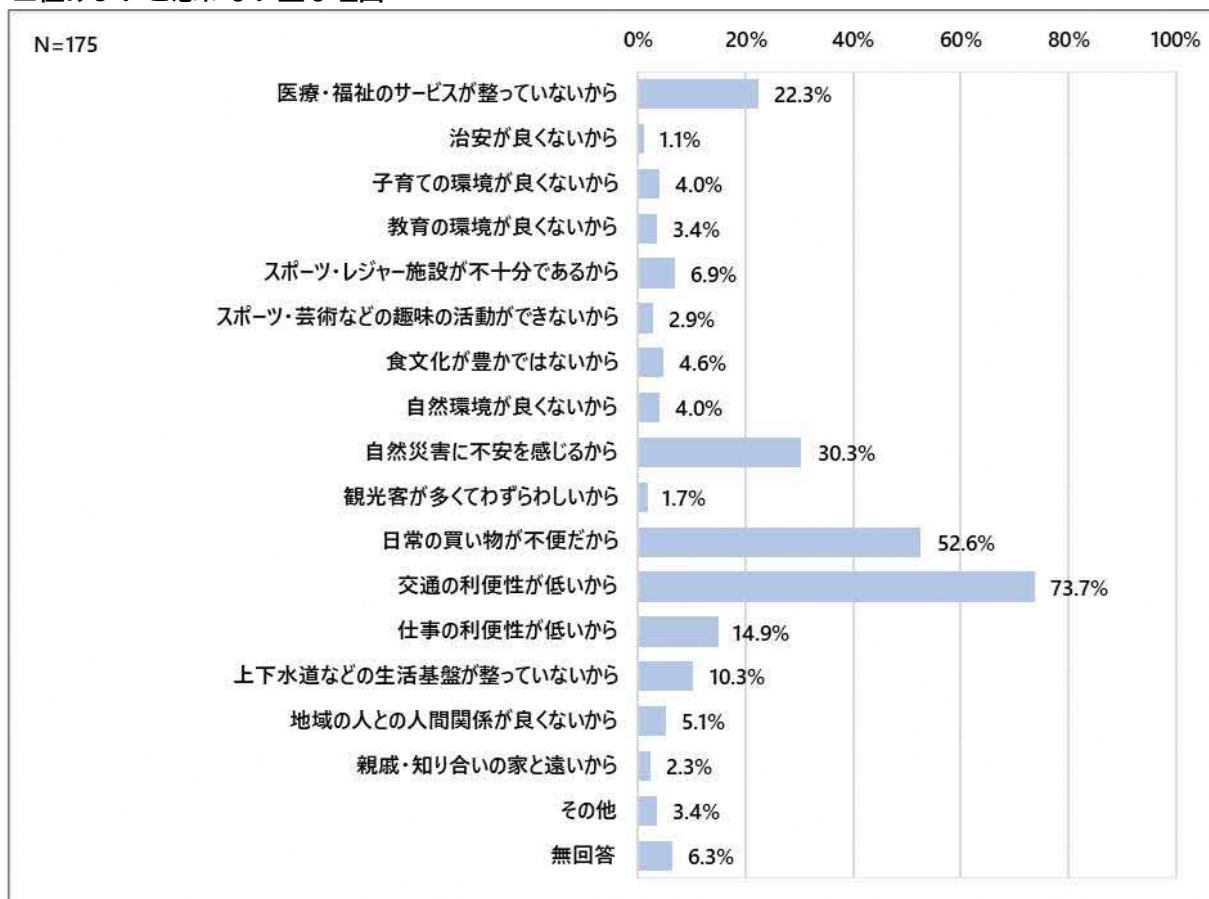
■ 白子町の住みよさ



■ 住みよいと思う主な理由



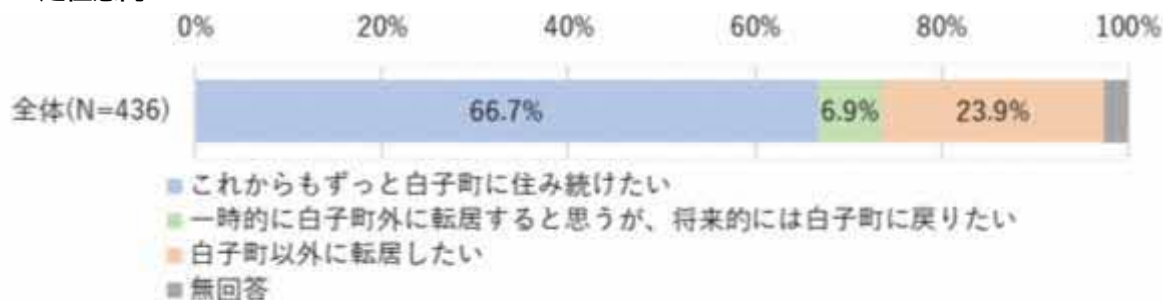
■住みよいと思わない主な理由



② 【住民】 定住の意向

- 定住意向に対して、「これからもずっと白子町に住み続けたい」との回答が66.7%と最多となっています。
- 「住み続けたいまち」として重要なことに対しては、「福祉・医療が整っている」や「子育て・教育環境が充実している」、「買い物ができる」との回答が多く、生活利便施設の充実が求められています。

■ 定住意向



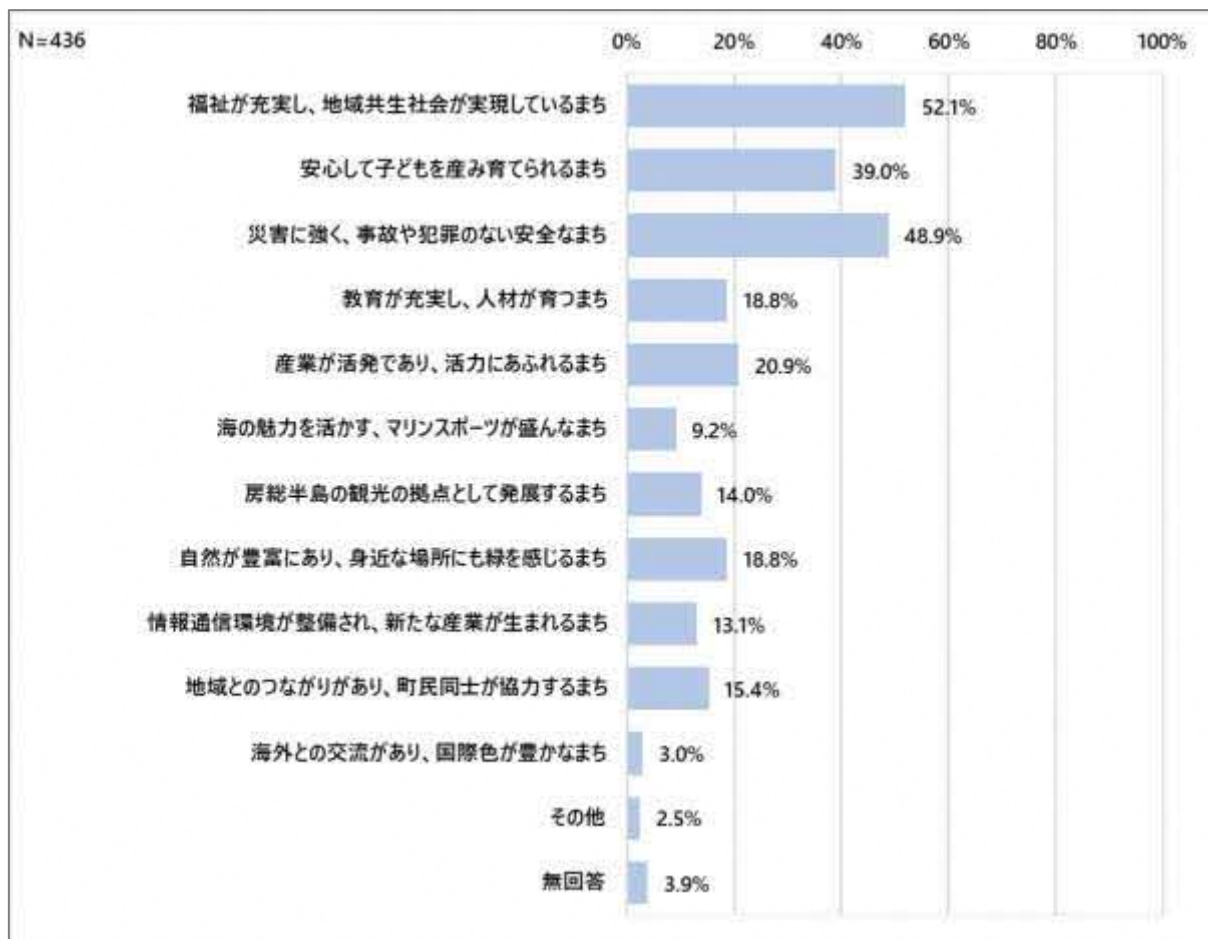
■ 「住み続けたいまち」として重要なこと



③ 【住民】まちづくりで大切にしたい「まちのイメージ」

- まちづくりで大切にしたいまちのイメージに対して、「福祉が充実し、地域共生社会が実現しているまち」や「災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち」、「安心して子どもを産み育てられるまち」との回答が多く、暮らしの充実や安全・安心の確保が求められています。

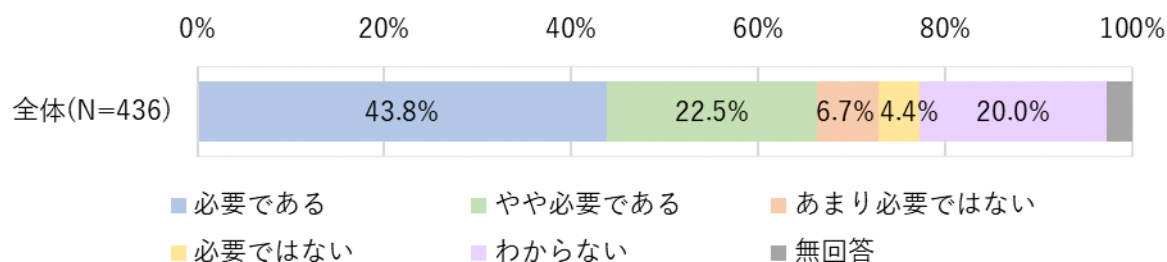
■まちづくりで大切にしたい「まちのイメージ」



④ 【住民】コンパクトシティの推進の必要性

- 総合計画で掲げるコンパクトシティの推進に対し、「必要である」と「やや必要である」との回答の合計が66.3%で過半数を占めており、今後の持続可能なまちづくりを推進するためにはコンパクトシティの推進が求められています。

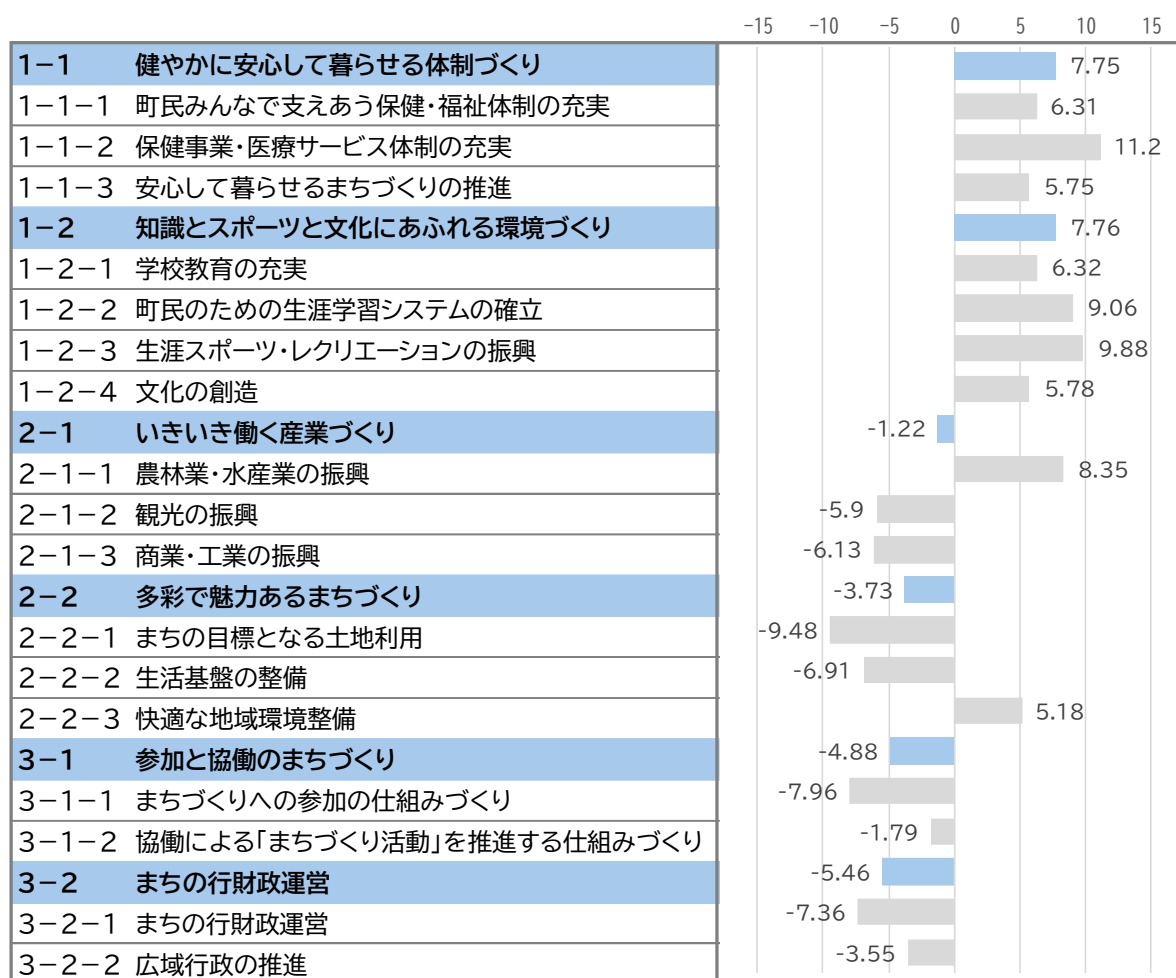
■コンパクトシティの推進の必要性



⑤【住民】白子町第5次総合計画前期基本計画の施策に対する満足度と重要度

- 総合計画の施策に対する満足度については、「健やかに安心して暮らせる体制づくり」と「知識とスポーツと文化にあふれる環境づくり」に対する満足度が高い一方で、「いきいきと働く産業づくり」や「多彩で魅力あるまちづくり」「参加と協働のまちづくり」「まちの行財政運営」に対しては満足度が低い結果となっています。
- 総合計画の施策に対する重要度については、「健やかに安心して暮らせる体制づくり」や「多彩で魅力あるまちづくり」「いきいきと働く産業づくり」に対して重要度が高い傾向にあり、引き続き暮らしの充実に対する取組の推進が求められるとともに、魅力づくりや産業づくりに対してはより一層の取組の強化が求められています。

■白子町第5次総合計画前期基本計画の施策に対する満足度（点数）



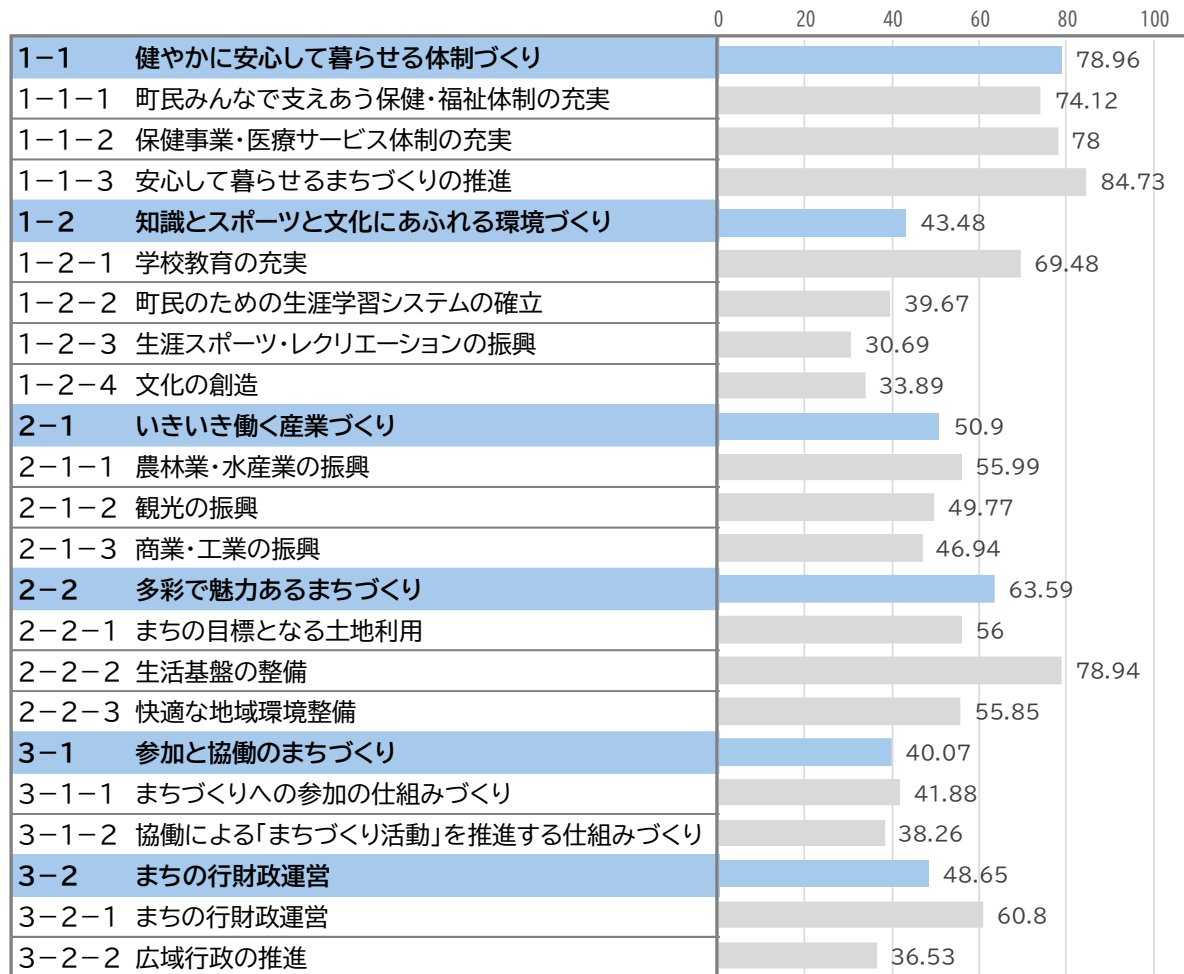
算出方法

$$\text{満足度} = \frac{(\text{満足度} \times 100 \text{点} + \text{まあまあ満足} \times 50 \text{点} + \text{やや不満} \times -50 \text{点} + \text{不満} \times -100 \text{点} + \text{わからない} \times 0 \text{点})}{\text{無回答を除く回答者数}}$$

「満足」を100点、「やや満足」を50点、「やや不満」を-50点、「不満」を-100点、「わからない」を0点とし、それらの合計値を回答者数（無回答を除く）で割ったものを満足度としています。数値が大きい施策は、満足度が高いことを示しています。

※重要度も同様に点数化

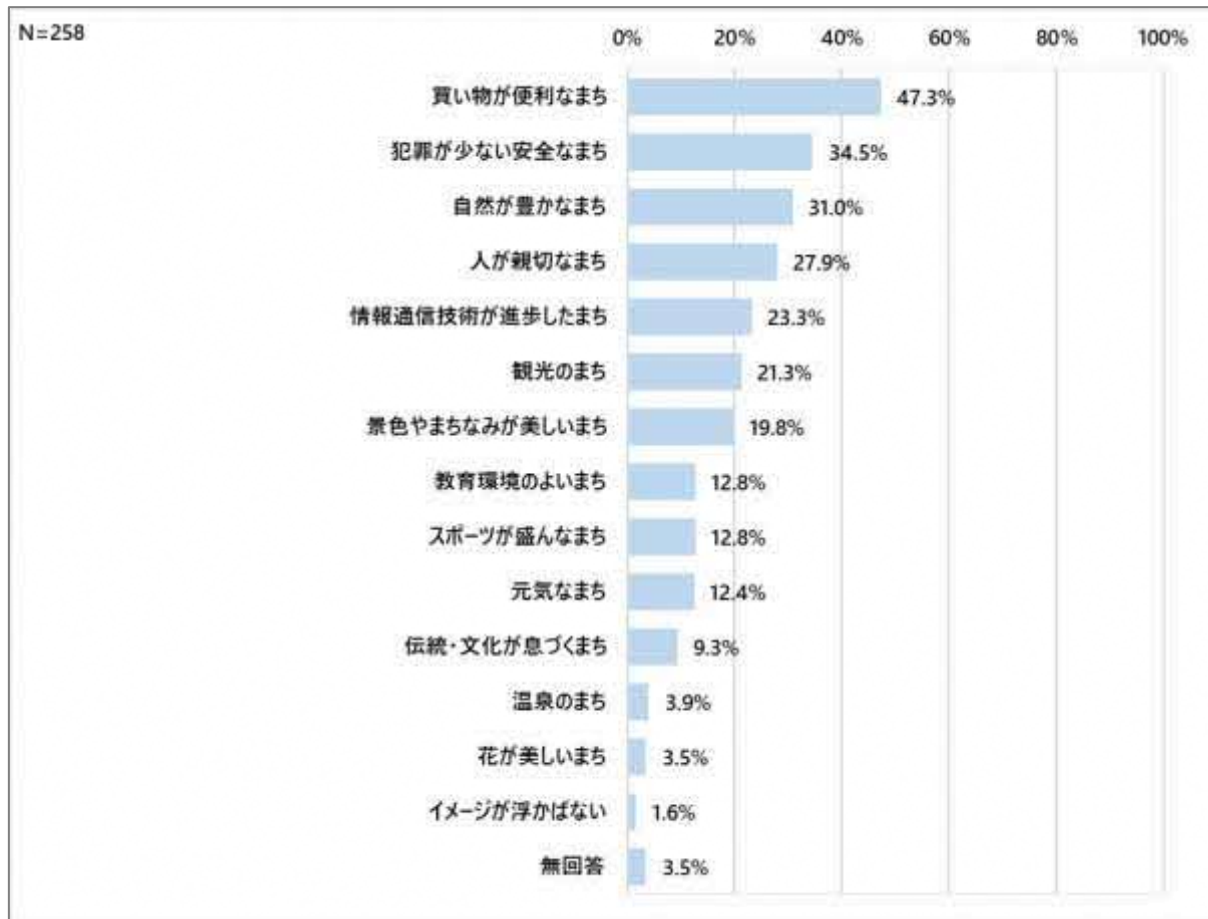
■白子町第5次総合計画前期基本計画の施策に対する重要度（点数）



①【小中学生】将来どのようなまちになってほしいか

- 将来どのようなまちになってほしいかに対して、「買い物が便利なまち」や「犯罪が少ない安全なまち」、「自然が豊かなまち」、「人が親切なまち」との回答が多い傾向にあり、生活利便性や安全・安心の確保に加え、自然環境の保全や人とのつながりの強化を求めています。

■将来どのようなまちになってほしいか



(2) 白子町地域公共交通計画策定時に実施したアンケート

<アンケート調査の概要>

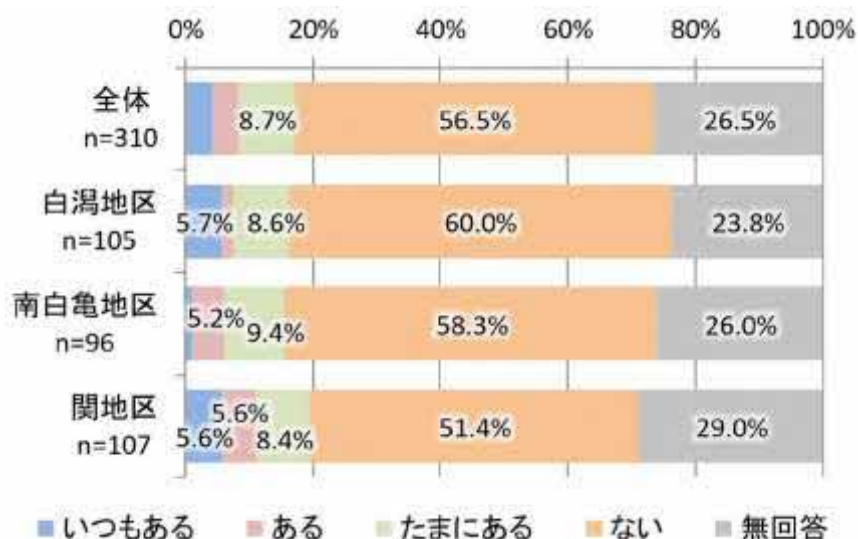
調査目的	町民の日常生活における移動実態（属性別、地域別、目的別にどこに移動しているのか）や公共交通の利用状況、公共交通に対するニーズ（どのような公共交通を求めているのか）を調査し、現在の白子町の地域公共交通の問題点・課題などを把握し、地域公共交通計画の策定に向けた検討材料とするため。
調査対象及び調査方法	16歳以上の町民を対象に、1,000人を無作為抽出して、アンケート用紙の郵送配布及び郵送回収の方法により、令和5年9月に実施した。
調査回収結果	310人（回収率31.0%）からアンケート用紙を回収した。

<今後のまちづくりに対する町民の意向>

① 町内の移動に関する困りごと

- 町内に移動に対して、困りごとが「いつもある」、「ある」、「たまにある」と回答した方は17.0%と少ない状況であるが、困りごとの内容としては路線バスの利便性や交通安全に対する意見が挙げられており、公共交通の利便性の向上や交通安全対策の充実が求められています。

■町内の移動に対して困ったと感ずることがあるか（5%未満を非表示）



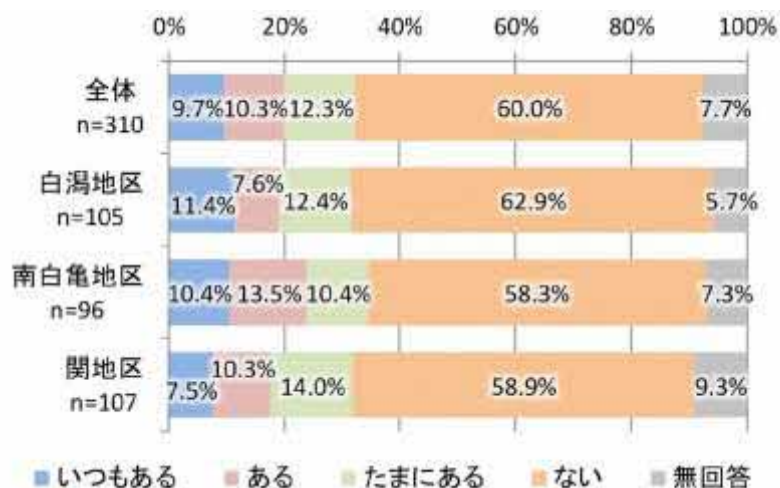
■町内の移動に関する困りごと（困りごとがあったと回答した人のみ回答）

	町内の移動に関する困りごとの時間帯					無回答	合計
	朝の通勤時間帯(始発～9時頃)	午前中の時間帯(9時～12時頃)	日中の時間帯(13時～16時頃)	夕方頃の時間帯(16時～19時頃)	夜間の時間帯(19時頃～最終便)		
全体 n=53	34.0%	37.7%	37.7%	39.6%	18.9%	17.0%	184.9%
白潟地区 n=17	35.3%	29.4%	29.4%	41.2%	0.0%	17.6%	152.9%
南白亀地区 n=15	40.0%	33.3%	46.7%	40.0%	26.7%	13.3%	200.0%
関地区 n=21	28.6%	47.6%	38.1%	38.1%	28.6%	19.0%	200.0%

② 町外の移動に関する困りごと

- 町外に移動に対して、困りごとが「いつもある」、「ある」、「たまにある」と回答した方は32.3%と回答者の1/3程度を占めています。困りごとの内容としては町内の移動と同様、路線バスの利便性や交通安全に対する意見が多く挙げられており、公共交通の利便性の向上や交通安全対策の充実が求められています。

■町外の移動に対して困ったと感ずることがあるか



■町外の移動に関する困りごと（困りごとがあったと回答した人のみ回答）

	町外の移動に関する困りごとの時間帯						合計
	朝の通勤時間帯(始発～9時頃)	午前中の時間帯(9時～12時頃)	日中の時間帯(13時～16時頃)	夕方頃の時間帯(16時～19時頃)	夜間の時間帯(19時頃～最終便)	無回答	
全体 n=100	37.0%	36.0%	28.0%	33.0%	18.0%	12.0%	164.0%
白濁地区 n=33	33.3%	39.4%	21.2%	36.4%	18.2%	6.1%	154.5%
南白亀地区 n=33	42.4%	39.4%	36.4%	30.3%	18.2%	15.2%	181.8%
関地区 n=34	35.3%	29.4%	26.5%	32.4%	17.6%	14.7%	155.9%

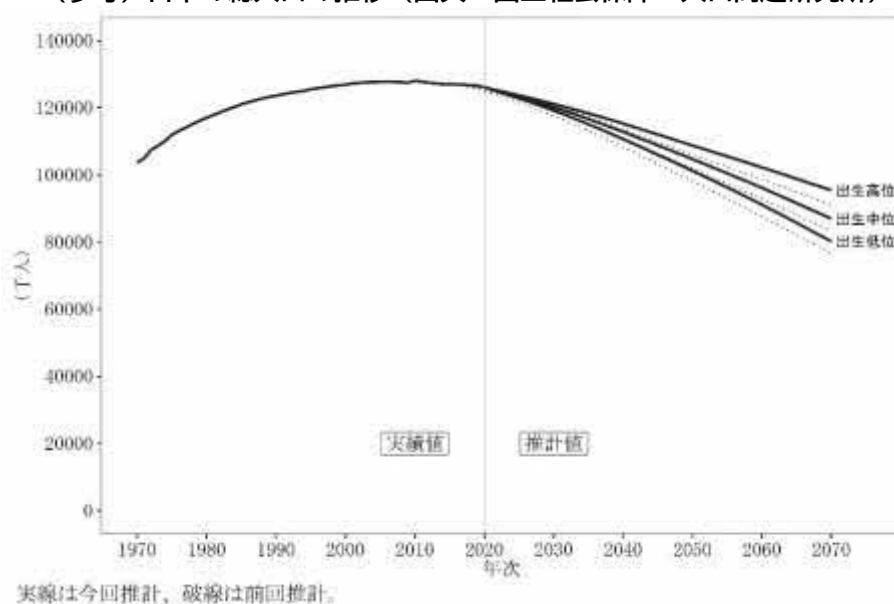
3. 白子町を取り巻く社会動向

白子町の今後のまちづくりを検討するうえで、考慮すべき社会動向を以下に整理しました。

(1) 少子高齢化と人口減少社会の進展

- 我が国は本格的な人口減少社会に向かうことが予想され、令和2（2020）年国勢調査による1億2,615万人が、2056年には1億人を割って9,965万人となり、2070年には8,700万人にまで減少することが見込まれています。また、65歳以上の人口割合（高齢化率）は、令和2（2020）年の28.6%から2070年には38.7%へと上昇することが見込まれています。
- こうした人口構造の変化により、社会保障制度の破綻、産業における競争力の低下等をもたらし、社会全体の活力が弱まる恐れがあります。さらには、コミュニティの担い手の減少につながり、地域社会の機能低下を招くことが懸念されています。
- 今後のまちづくりにおいては、誰もが健康で生きがいをもち、健やかに暮らし続けることができるための環境づくり、子どもを安心して産み育てることができる環境づくり、さらには人口減少に対応した都市機能の適正な配置などが課題となります。

（参考）日本の総人口の推移（出典：国立社会保障・人口問題研究所）



- ・ 白子町においても少子高齢化は進行しており、介護・医療費などの社会保障費の増大も懸念されます。そのため、「健康寿命」の延伸も意識した上で、高齢者がいつまでも安心して暮らせるためのまちづくりが求められます。
- ・ 白子町の合計特殊出生率は国や県の値を下回っている現状にあるため、安心して子どもを産み育てる環境を整えるとともに、移住を促進するための取組も必要となります。
- ・ 人口減少により既存の都市機能の維持が困難となる恐れがあることから、都市機能を集約・誘導し、それと連携した公共交通網を形成するなど、都市機能の適正配置の検討が求められます。

(2) 安全・安心の確保に対する意識の向上

- 平成23(2011)年に発生した東日本大震災を契機として、自然災害に対するリスクマネジメントや安全・安心な暮らしの確保に関心が高まっています。
- 近年では気候変動により大型台風、集中豪雨などの災害リスクが高まっていることに加え、首都直下型地震の発生も想定されていることから、国や地方公共団体における、より一層の防災対策の強化が求められています。
- 我が国の交通事故発生件数は減少傾向にありますが、高齢ドライバーによる交通事故の増加や危険運転致死傷の事件数も高い水準にあるなど、誰もが安全・安心に暮らせる環境づくりが求められています。

(参考) 高齢運転者による交通人身事故発生状況 (出典：千葉県警察資料をもとに作成)

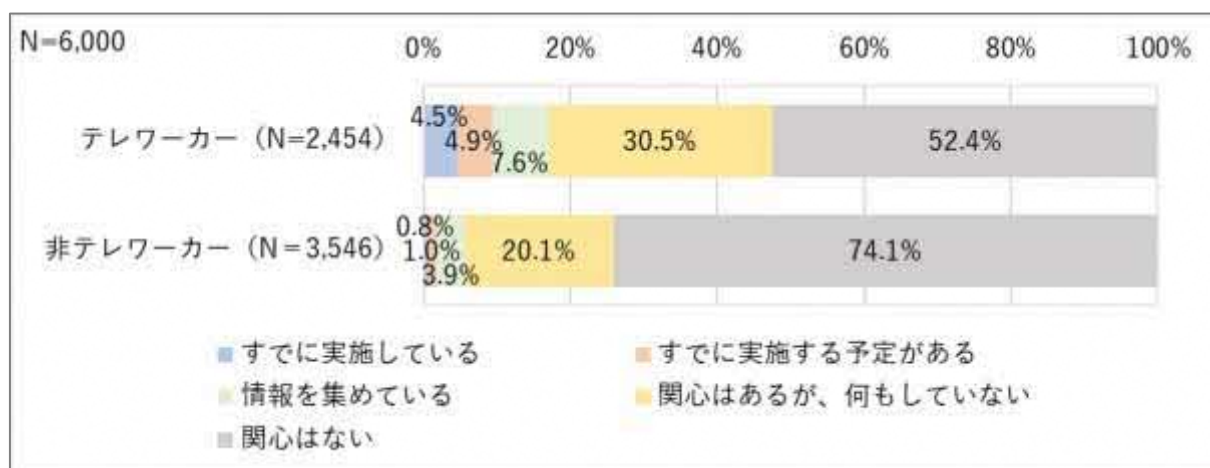


- ・ 白子町には、津波や洪水の被害が想定されるエリアがあります。今後も緊急避難所の整備を進めるとともに、防災の意識の啓発といったハード・ソフト両面での対策が必要です。
- ・ 白子町の高齢化率は40%を超えており（令和2年時点）、今後さらなる高齢化の進展が想定されます。白子町での日常生活において自動車は欠かせない存在である一方で、高齢者による事故等も増加しています。今後も交通安全対策等の充実により安全安心に移動できる環境の形成を図るとともに、過度に車に依存しなくても生活できる環境整備が求められています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

- 令和2（2020）年より世界的な感染拡大がみられた新型コロナウイルス感染症は、各国の社会経済のみならず、人々の働き方や日常的な行動に至るまで、大きな影響を及ぼしました。
- 一方、感染症の感染拡大を契機として、テレワーク、オンライン授業、ネットショッピング、キャッシュレス決済など就業、学習、日常的な買い物まで様々な場面でのオンライン化が進んだことにより、人々の暮らしや働き方の変革が急速に進展しました。
- このような変革を背景として、ヒトやモノ等の流れが大きく変化しました。その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転もみられています。

（参考）ワーケーションの実施・検討状況（出典：国土交通省資料をもとに作成）



白子町における



- ・白子町においても、都心との距離感や豊かな自然環境、生活環境に恵まれた特徴を活かし、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした暮らし方、過ごし方、仕事の仕方の変化に対応した、移住・定住の地として選ばれるまちづくりが求められています。

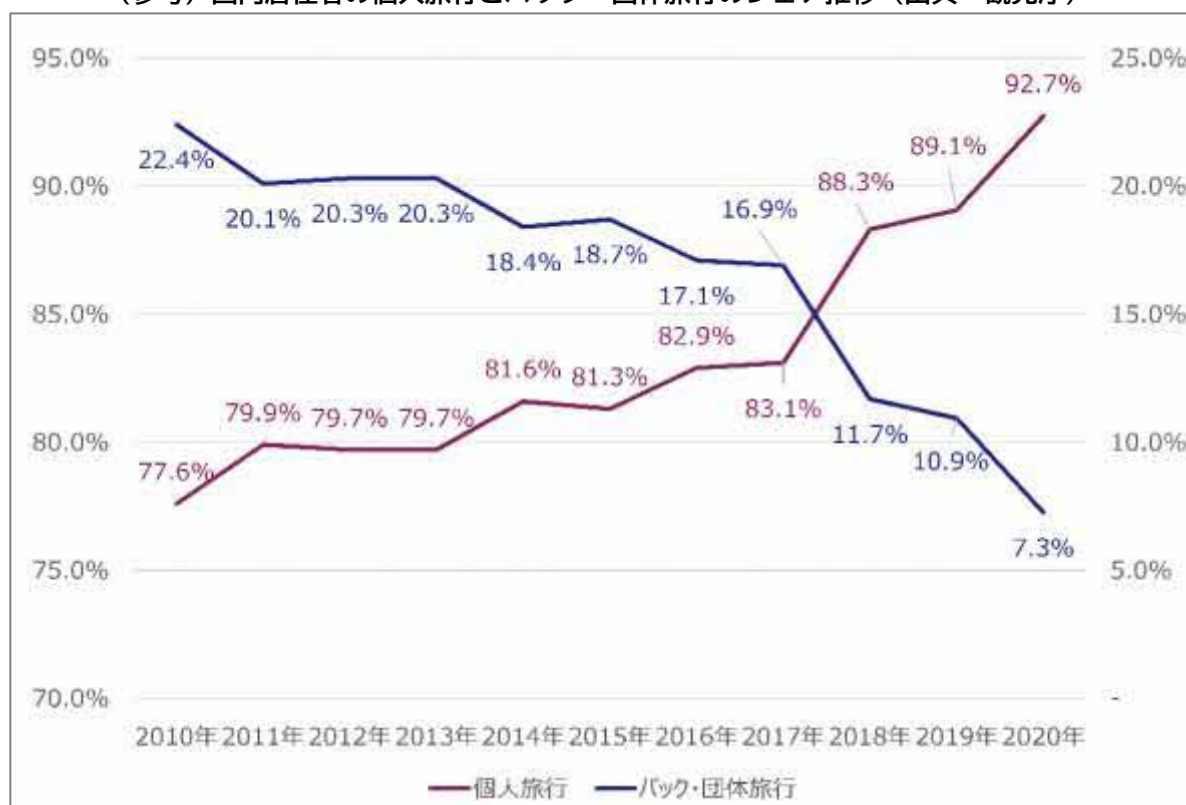
(4) 観光・旅行に対するニーズの多様化

- 団体旅行から個人旅行へとニーズが変化しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機にその傾向は高まっています。
- 訪日外国人旅行者は増加傾向にあり、平成24(2012)年から令和元(2019)年の7年間で3.8倍に増加しており、インバウンドへの対応が求められています。

(参考) 訪日外国人旅行者数の推移



(参考) 国内居住者の個人旅行とパック・団体旅行のシェア推移 (出典：観光庁)



白子町における



Point

- ・ 白子町においても、都心との距離感や豊かな自然環境、生活環境に恵まれた特徴を活かしつつ、多様化する観光や旅行のニーズに対応したまちづくりの推進が求められています。

(5) 持続可能なまちづくりに対する取組

- 持続可能な開発目標（SDGs）は、平成28年から令和12年までの15年間の国際目標です。持続可能でより良い社会を実現していくための17のゴールと169のターゲットによって構成されており、地球上の誰一人として取り残さない社会の実現を目指しています。都市計画の分野においても、持続可能性に配慮した取組みが求められています。

（参考）持続可能な開発目標（出典：外務省）

持続可能な開発目標(SDGs)

■ 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標。(その下に、169のターゲット、231の指標が決められている。)

(1)貧困	(2)飢餓	(3)健康	(4)教育	(5)ジェンダー	(6)水・衛生
(7)エネルギー	(8)成長・雇用	(9)インフラ	(10)平等	(11)都市	(12)消費
(13)気候変動	(14)海洋資源	(15)陸上資源	(16)平和	(17)パートナーシップ	

普遍性	先進国を含め、全ての国が行動
包摂性	人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
参画型	全てのステークホルダーが役割を
統合性	社会・経済・環境に統合的に取り組む
透明性	定期的にフォローアップ

白子町における



Point

- ・白子町では、土地利用から見ても自然環境の占める割合は高く、かつ海に面していることから、自然と共生したまちづくりが求められます。そのため、SDGsの理念を町民と共有したうえで、持続可能なまちづくりの実現が今後も求められます。

(6) 新たなモビリティの創出など移動手段の多様化

- 公共交通に関して、人口減少等による利用者数の減少や、公共交通の労働環境の変化等による運転手不足により公共交通の維持が困難になることが懸念されています。
- 一方で、自動車の自動運転などの技術の進展や、シェアサイクル・電動キックボードなどの新たなモビリティの創出など、移動を支える手段の多様化が進んでおり、それらを活用したまちづくりが求められています。

白子町における



Point

- ・白子町での日常生活において自動車は欠かせない存在である一方で、自家用車での移動が制約される高齢者や学生等の移動手段の確保、また過度に車に依存しない社会の構築の観点から、既存の地域公共交通や新たなモビリティの組み合わせによる利便性の高い移動環境の確保が求められています。

(7) DXの進展

- インターネットをはじめとした ICT の著しい発展により、社会経済システム全体から人々の日常生活全般に至るまで、大きな変革が生じています。
- DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、「ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」を意味しており、世界各国において国をあげた取組が推進されています。
- 国は、ICT を活用して地方を活性化することを目的として、令和3（2021）年に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、次いで令和4（2022）年には「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を示しました。デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保、誰一人取り残されないための取組の推進等を通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るものとしています。

白子町における



Point

- ・白子町においても、効率的な行政運営やまちづくりにおける地域とのコミュニケーションのツールとしてデジタル技術の活用が期待されることから、DXの進展に対応した取組の推進が求められています。

(8) 公共施設・インフラの適正管理

- 公共施設やインフラの老朽化が急速に進む中、「新しく造ること」から「賢く使うこと」へと考え方が変化しています。長期的な視点に立った施設の長寿命化・更新・統廃合など、公共施設などの計画的な管理が求められています。

白子町における



Point

- ・白子町においても、公共施設やインフラの老朽化が進行している一方で、財政は厳しい状況にあります。そのため、限られた財源の中で、町民が安全安心に、使い勝手の良い施設の確保に向けたマネジメントが求められています。